

3. さまざまな人権問題について

**問8 次の「部落差別」に関することがらについて、あなたのお考えを教えてください。
(それぞれ一つに○をつけてください)**

問8は、部落差別に関する考え方を問う設問です。

表8-1によると、「3 差別を受けてきた地域の人びとには、なんら差別される理由はない」との考えに「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」を合わせた YES の比率が 85.7%と高い比率になっています。しかし、「2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる」の考えに「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」を合わせた YES は 36.9%と低いとは言えません。また、「1 そっとしておけば部落差別はなくなる」の考えに YES は 38.0%、「4 部落差別について学習するから差別はなくなる」の考えに YES は 31.8%、「5 今後も部落差別はなくなると思う」の考えに YES は 43.7%と、部落差別の解決に消極的、悲観的な考えも少なくありません。

表8-1の右端は、人権意識が高いほど点数が高くなるように点数化し、平均値を求めたものです。「1 そっとしておけば部落差別はなくなる」、「4 部落差別について学習するから差別はなくなる」、「5 今後も部落差別はなくなると思う」、「7 部落差別などの同和問題を知らない」は、「そう思う」1、「どちらかと言えばそう思う」2、「どちらかと言えばそうは思わない」3、「そうは思わない」4とし、末尾に（逆）をつけています。「3 差別を受けてきた地域の人びとには、なんら差別される理由はない」、「6 部落差別をなくすために啓発活動に力を入れるべきだ」は、「そう思う」4、「どちらかと言えばそう思う」3、「どちらかと言えばそうは思わない」2、「そうは思わない」1としています。

項目間で平均値を比較すると、「6 部落差別をなくすために啓発活動に力を入れるべきだ」の平均値が最も低く、次いで、「5 今後も部落差別はなくなると思う・逆」となっています。

また、「1 そっとしておけば部落差別はなくなる・逆」については、2007年調査のデータの平均値も併記しています。それによりますと、2007年調査の3.2から、2020年は2.8へと平均値が下がっており、「そっとしておけば部落差別はなくなる」と考えている人が増えていると解釈されます。

表 8-1

	合計	そう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そうは思わない	無回答	平均値	2007年調査 平均値
1 そっとしておけば 部落差別はなくなる・逆	1,420	11.3%	26.7%	26.8%	33.2%	2.0%	2.8	3.2
2 引っ越しをする場合、 差別を受けてきた地域か どうか気になる・逆	1,420	8.4%	28.5%	25.1%	36.3%	1.8%	2.9	
3 差別を受けてきた地域 の人びとには、なんら差別 される理由はない	1,420	55.6%	30.1%	7.3%	4.6%	2.3%	3.4	
4 部落差別について学習 するから差別はなくなる ・逆	1,420	9.9%	21.9%	34.1%	31.7%	2.5%	2.9	
5 今後も部落差別はな くならないと思う・逆	1,420	10.4%	33.3%	31.8%	22.2%	2.3%	2.7	
6 部落差別をなくすた めに啓発活動に力を入れ るべきだ	1,420	13.4%	40.5%	30.7%	12.5%	2.9%	2.6	
7 部落差別などの同和 問題を知らない・逆	1,420	8.2%	16.8%	21.9%	50.4%	2.7%	3.2	

表 8-2-1 は、性別による部落差別の考え方の違いをみたものです。

表 8-2-1 において、性差が認められる項目について平均値を求める操作を行います。

表 8-2-2 は、表 8-2-1 において統計的有意差が認められた項目について平均値を求めたものです。

表 8-2-1

		合計	そう 思う	思 う	言 え ば そ う	ど ち ら か と	思 わ な い	言 え ば そ う	ど ち ら か と	な い	そ う は 思 わ ない	統計的 検定
1 そっとしておけば部 落差別はなくなる	男性	621	12.2%			28.7%		22.9%		36.2%		p=.006**
	女性	745	11.1%			26.2%		31.4%		31.3%		
	性別未選択者	12	16.7%			0.0%		25.0%		58.3%		
	合計	1,378	11.7%			27.1%		27.5%		33.7%		

表 8-2-1 つづき

		合計	そう思う	思う 言え ば そう	どちら かと 思 わ ない	ど ち ら か と 言 え ば そ う	ど ち ら か と 思 わ ない	統計的 検定
2 引越しをする場合、 差別を受けてきた地域 かどうか気になる	男性	622	8.5%	27.0%	23.8%	40.7%	p=. 238	
	女性	750	8.5%	30.4%	26.9%	34.1%		
	性別未選択者	10	0.0%	40.0%	20.0%	40.0%		
	合計	1,382	8.5%	28.9%	25.5%	37.1%		
3 差別を受けてきた地 域の人びとには、なん ら差別される理由はない	男性	620	55.3%	30.0%	7.9%	6.8%	p=. 085	
	女性	742	58.4%	31.5%	7.0%	3.1%		
	性別未選択者	12	58.3%	25.0%	8.3%	8.3%		
	合計	1,374	57.0%	30.8%	7.4%	4.8%		
4 部落差別について学 習するから差別はなくな らない	男性	619	12.4%	22.0%	30.9%	34.7%	p=. 020*	
	女性	741	8.5%	22.0%	38.6%	30.9%		
	性別未選択者	12	0.0%	33.3%	25.0%	41.7%		
	合計	1,372	10.2%	22.1%	35.0%	32.7%		
5 今後も部落差別はな くならないと思う	男性	620	12.4%	31.5%	31.6%	24.5%	p=. 195	
	女性	743	9.4%	36.2%	33.5%	20.9%		
	性別未選択者	11	9.1%	27.3%	27.3%	36.4%		
	合計	1,374	10.8%	34.0%	32.6%	22.6%		
6 部落差別をなくすた めに啓発活動に力を入 れるべきだ	男性	618	17.2%	38.0%	30.7%	14.1%	p=. 004**	
	女性	738	11.1%	44.3%	32.8%	11.8%		
	性別未選択者	10	0.0%	70.0%	10.0%	20.0%		
	合計	1,366	13.8%	41.7%	31.7%	12.9%		
7 部落差別などの同和 問題を知らない	男性	615	9.4%	17.9%	22.9%	49.8%	p=. 376	
	女性	743	7.8%	16.7%	21.9%	53.6%		
	性別未選択者	11	0.0%	9.1%	45.5%	45.5%		
	合計	1,369	8.5%	17.2%	22.6%	51.8%		

表 8-2-2

F1 性別	1 そっとしておけば 部落差別はなくなる	4 部落差別について 学習するから差別は なくなる	6 部落差別をなくす ために啓発活動に力 を入れるべきだ・逆
男性	2.8	2.9	2.6
女性	2.8	2.9	2.6
性別未選択者	3.3	3.1	2.5
合計	2.8	2.9	2.6

表 8-2-1 と表 8-2-2 から、次のような解釈が可能です。

「1 そっとしておけば部落差別はなくなる」、「4 部落差別について学習するから差別はなくなる」、は、男性および女性と比較して性別未選択者において平均値が高いことがわかります。しかし、「6 部落差別をなくすために啓発活動に力を入れるべきだ」については、逆に、男性と女性が性別未選択者よりも、幾分、平均値が高い結果となっています。

これらの結果から、部落差別の考え方について、いずれの性の人権意識が高いのか、一概に結論づけることはできません。

表 8-3-1 は、年齢と部落差別に関する考え方との関連をみたものです。

「3 差別を受けてきた地域の人びとには、なんら差別される理由はない」以外の 6 項目について、年齢との間に統計的有意差が認められました。

表 8-3-2 は、表 8-3-1 において統計的に有意差が認められた項目について、平均値を求めたものです。

表 8-3-1

		合計	そう思う	思う	どちらかと言えそう	どちらかと思わない	そうは思わない	統計的検定
1 そっとしておけば部落差別はなくなる	10 歳代	127	12.6%	15.0%	29.1%	43.3%	P<.001***	
	20 歳代	173	8.7%	20.8%	28.9%	41.6%		
	30 歳代	177	9.6%	28.8%	29.9%	31.6%		
	40 歳代	192	8.9%	29.2%	30.7%	31.3%		
	50 歳代	213	8.0%	28.6%	28.6%	34.7%		
	60 歳代	263	11.4%	31.2%	25.5%	31.9%		
	70 歳代以上	227	21.6%	29.1%	22.5%	26.9%		
	合計	1,372	11.7%	27.0%	27.6%	33.7%		
2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる	10 歳代	127	3.1%	15.0%	26.8%	55.1%	p<.001***	
	20 歳代	173	9.8%	21.4%	20.2%	48.6%		
	30 歳代	177	11.9%	25.4%	22.6%	40.1%		
	40 歳代	193	13.5%	32.1%	20.2%	34.2%		
	50 歳代	215	12.1%	33.5%	28.8%	25.6%		
	60 歳代	264	3.8%	31.8%	29.9%	34.5%		
	70 歳代以上	227	5.7%	33.9%	27.3%	33.0%		
	合計	1,376	8.5%	28.8%	25.5%	37.2%		
3 差別を受けてきた地域の人びとには、なんら差別される理由はない	10 歳代	123	62.6%	22.8%	6.5%	8.1%	p=.078	
	20 歳代	172	60.5%	27.3%	8.7%	3.5%		
	30 歳代	176	51.7%	32.4%	8.5%	7.4%		
	40 歳代	193	61.7%	28.0%	7.8%	2.6%		
	50 歳代	214	49.1%	38.8%	7.5%	4.7%		
	60 歳代	262	60.3%	29.8%	4.6%	5.3%		
	70 歳代以上	227	56.4%	31.3%	8.8%	3.5%		
	合計	1,367	57.2%	30.6%	7.4%	4.8%		
4 部落差別について学習するから差別はなくなるらない	10 歳代	126	7.1%	14.3%	38.9%	39.7%	p=.001**	
	20 歳代	173	5.2%	15.6%	41.0%	38.2%		
	30 歳代	176	7.4%	23.9%	36.4%	32.4%		
	40 歳代	193	13.5%	23.3%	36.3%	26.9%		
	50 歳代	214	8.9%	23.4%	38.3%	29.4%		
	60 歳代	260	11.5%	22.3%	31.2%	35.0%		
	70 歳代以上	223	15.2%	27.8%	26.9%	30.0%		
	合計	1,365	10.3%	22.1%	34.9%	32.7%		
5 今後も部落差別はなくなるらないと思う	10 歳代	126	11.9%	32.5%	38.9%	16.7%	p=.042*	
	20 歳代	171	8.8%	42.7%	28.1%	20.5%		
	30 歳代	179	10.6%	30.7%	34.6%	24.0%		
	40 歳代	193	16.6%	31.1%	32.1%	20.2%		
	50 歳代	214	9.8%	37.4%	35.0%	17.8%		
	60 歳代	262	8.4%	32.8%	29.8%	29.0%		
	70 歳代以上	223	10.3%	31.4%	32.3%	26.0%		
	合計	1,368	10.7%	34.0%	32.6%	22.7%		

表 8-3-1 つづき

		合計	そう思う	思う	どちらかと言えばそう	どちらかと思わない	言えばそう	どちらかと言えない	そうは思わない	統計的検定
6 部落差別をなくすために啓発活動に力を入れるべきだ	10 歳代	126	18.3%	50.8%	21.4%	9.5%				p=. 001**
	20 歳代	172	16.3%	51.2%	23.8%	8.7%				
	30 歳代	177	5.6%	44.1%	36.2%	14.1%				
	40 歳代	192	16.1%	32.8%	38.5%	12.5%				
	50 歳代	212	10.8%	38.7%	37.3%	13.2%				
	60 歳代	259	15.1%	40.2%	29.3%	15.4%				
	70 歳代以上	222	15.3%	38.7%	32.0%	14.0%				
	合計	1,360	13.8%	41.5%	31.8%	12.9%				
7 部落差別などの同和問題を知らない	10 歳代	125	17.6%	20.8%	24.8%	36.8%				p<. 001***
	20 歳代	173	16.2%	25.4%	23.1%	35.3%				
	30 歳代	179	11.7%	21.2%	20.7%	46.4%				
	40 歳代	192	4.2%	13.5%	25.5%	56.8%				
	50 歳代	215	3.7%	10.2%	23.3%	62.8%				
	60 歳代	261	3.8%	13.0%	21.1%	62.1%				
	70 歳代以上	217	8.8%	20.7%	19.8%	50.7%				
	合計	1,362	8.5%	17.3%	22.4%	51.8%				

表 8-3-2

F2 年齢	1 そっとしておけば部落差別はなくなる・逆	2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる・逆	4 部落差別について学習するから差別はなくなる・逆	5 今後も部落差別はなくなると思う・逆	6 部落差別をなくすために啓発活動に力を入れるべきだ	7 部落差別などの同和問題を知らない・逆
10 歳代	3.0	3.3	3.1	2.6	2.8	2.8
20 歳代	3.0	3.1	3.1	2.6	2.8	2.8
30 歳代	2.8	2.9	2.9	2.7	2.4	3.0
40 歳代	2.8	2.8	2.8	2.6	2.5	3.4
50 歳代	2.9	2.7	2.9	2.6	2.5	3.5
60 歳代	2.8	3.0	2.9	2.8	2.6	3.4
70 歳代以上	2.6	2.9	2.7	2.7	2.6	3.1
合計	2.8	2.9	2.9	2.7	2.6	3.2

表 8-3-1 と表 8-3-2 より、次のような解釈ができます。

「1 そっとしておけば部落差別はなくなる・逆」、「2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる・逆」、「4 部落差別について学習するから差別はなくなる・逆」という考えについて、10 代、20 代において平均値が高くなっています。また、「6 部落差別をなくすために啓発活動に力を入れるべきだ」という考えについては、10 歳代、20 歳代において、それより上の年代よりも平均値が高くなっています。しかし、「7 部落差別などの同和問題を知らない」については、50 歳代よりも年齢の低い人びとにおいて、平均値が低くなっています。「5 今後も部落差別はなくなると思う」については、60 歳代よりも低

い年代において平均値が低いことがわかります。

これらの結果から、年齢と部落差別に関する人権意識との関連について、年齢が低いほど人権意識が高い、あるいは、低いと結論づけることは困難です。

表 8-4-1 は、職種と部落差別についての考え方との関連をみたものです。すべての項目について職種との間に統計的有意差が認められました。

表 8-4-2 は、職種ごとの平均値を求めたものです。

表 8-4-1

		合計	そう思う	思う	どちらかと言えそう	どちらかと思わない	そうは思わない	統計的検定
1 そっとしておけば部落差別はなくなる	自営業	70	17.1%	30.0%	24.3%	28.6%		p<.001***
	自由業	14	14.3%	21.4%	28.6%	35.7%		
	公務員・教員	61	3.3%	23.0%	26.2%	47.5%		
	経営者・役員	35	20.0%	48.6%	11.4%	20.0%		
	正規職員	321	9.7%	28.0%	25.5%	36.8%		
	非正規職員	280	8.6%	28.2%	29.6%	33.6%		
	学生	166	10.8%	16.3%	31.3%	41.6%		
	無職	414	15.5%	28.5%	27.8%	28.3%		
合計	1361	11.8%	27.1%	27.4%	33.7%			
2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる	自営業	71	12.7%	21.1%	22.5%	43.7%		p<.001***
	自由業	14	0.0%	42.9%	21.4%	35.7%		
	公務員・教員	60	5.0%	26.7%	28.3%	40.0%		
	経営者・役員	35	11.4%	28.6%	20.0%	40.0%		
	正規職員	321	11.5%	30.5%	22.7%	35.2%		
	非正規職員	283	8.5%	32.2%	27.2%	32.2%		
	学生	166	5.4%	13.9%	24.1%	56.6%		
	無職	414	7.0%	33.1%	28.3%	31.6%		
合計	1364	8.4%	29.0%	25.7%	36.9%			
3 差別を受けてきた地域の人びとには、なんら差別される理由はない	自営業	70	55.7%	28.6%	8.6%	7.1%		p=.004**
	自由業	14	42.9%	14.3%	28.6%	14.3%		
	公務員・教員	60	65.0%	23.3%	8.3%	3.3%		
	経営者・役員	35	71.4%	22.9%	0.0%	5.7%		
	正規職員	319	56.1%	30.4%	9.1%	4.4%		
	非正規職員	283	51.2%	38.9%	6.0%	3.9%		
	学生	162	69.1%	19.8%	6.2%	4.9%		
	無職	414	55.1%	32.9%	7.5%	4.6%		
合計	1357	57.0%	30.9%	7.5%	4.6%			
4 部落差別について学習するから差別はなくなるらない	自営業	69	15.9%	21.7%	33.3%	29.0%		p<.001***
	自由業	14	0.0%	14.3%	57.1%	28.6%		
	公務員・教員	61	3.3%	8.2%	37.7%	50.8%		
	経営者・役員	35	8.6%	40.0%	28.6%	22.9%		
	正規職員	318	12.9%	22.0%	34.3%	30.8%		
	非正規職員	280	7.5%	25.4%	37.5%	29.6%		
	学生	165	4.8%	13.9%	37.6%	43.6%		
	無職	412	12.6%	23.5%	32.8%	31.1%		
合計	1354	10.2%	21.9%	35.1%	32.8%			

表 8-4-1 つづき

		合計	そう思う	思う	どちらかと言えばそう	どちらかと思わない	言えばそう	どちらかと言えない	統計的検定
5 今後も部落差別はなくならないと思う	自営業	68	17.6%	27.9%	25.0%	29.4%			p=.008**
	自由業	14	7.1%	28.6%	50.0%	14.3%			
	公務員・教員	61	3.3%	29.5%	37.7%	29.5%			
	経営者・役員	35	5.7%	14.3%	40.0%	40.0%			
	正規職員	319	11.9%	37.6%	31.0%	19.4%			
	非正規職員	282	10.3%	41.1%	27.3%	21.3%			
	学生	165	9.1%	34.5%	37.6%	18.8%			
	無職	413	11.6%	30.0%	34.6%	23.7%			
	合計	1357	10.8%	34.1%	32.6%	22.5%			
6 部落差別をなくすために啓発活動に力を入れるべきだ	自営業	70	14.3%	35.7%	27.1%	22.9%			p<.001***
	自由業	14	0.0%	28.6%	71.4%	0.0%			
	公務員・教員	60	25.0%	41.7%	25.0%	8.3%			
	経営者・役員	35	17.1%	22.9%	48.6%	11.4%			
	正規職員	318	11.0%	41.2%	34.0%	13.8%			
	非正規職員	278	14.7%	43.5%	31.7%	10.1%			
	学生	165	18.2%	52.7%	21.2%	7.9%			
	無職	409	12.0%	39.9%	33.3%	14.9%			
	合計	1349	13.8%	41.8%	31.7%	12.7%			
7 部落差別などの同和問題を知らない	自営業	68	5.9%	27.9%	23.5%	42.6%			p<.001***
	自由業	14	0.0%	14.3%	28.6%	57.1%			
	公務員・教員	60	1.7%	0.0%	23.3%	75.0%			
	経営者・役員	35	5.7%	14.3%	11.4%	68.6%			
	正規職員	319	9.7%	19.7%	22.9%	47.6%			
	非正規職員	277	7.6%	12.3%	21.7%	58.5%			
	学生	165	16.4%	18.8%	26.1%	38.8%			
	無職	411	6.6%	19.2%	22.4%	51.8%			
	合計	1349	8.4%	17.3%	22.7%	51.7%			

表 8-4-2

F3 職業	1 そっとしておけば部落差別はなくなる・逆	2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる・逆	3 差別を受けてきた地域の人びとには、なんら差別される理由はない	4 部落差別について学習するから差別はなくなる・逆	5 今後も部落差別はなくならないと思う・逆	6 部落差別をなくすために啓発活動に力を入れるべきだ	7 部落差別などの同和問題を知らない・逆
自営業	2.6	3.0	3.3	2.8	2.7	2.4	3.0
自由業	2.9	2.9	2.9	3.1	2.7	2.3	3.4
公務員・教員	3.2	3.0	3.5	3.4	2.9	2.8	3.7
経営者・役員	2.3	2.9	3.6	2.7	3.1	2.5	3.4
正規職員	2.9	2.8	3.4	2.8	2.6	2.5	3.1
非正規職員	2.9	2.8	3.4	2.9	2.6	2.6	3.3
学生	3.0	3.3	3.5	3.2	2.7	2.8	2.9
無職	2.7	2.9	3.4	2.8	2.7	2.5	3.2
合計	2.8	2.9	3.4	2.9	2.7	2.6	3.2

表 8-4-1 と表 8-4-2 より特徴的な傾向を列挙します。総じて、公務員・教員の点数が高く、部落差別について人権意識の高さが読み取れます。「1 そっとしておけば部落差別はなくなる・逆」という考えに、経営者・役員の平均値が低くなっています。「2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる・逆」では、正規職員、非正規職員において平均値が低く、学生で平均値が高くなっています。「4 部落差別について学習するから差別はなくなる・逆」では、自営業、正規職員、無職において、平均値が低く、公務員・教員、学生で平均値が高くなっています。「5 今後も部落差別はなくなる・逆」という考えでは、正規職員、非正規職員において平均値が低く、経営者・役員で平均値が高くなっています。「3 差別を受けてきた地域の人びとには、なんら差別される理由はない」については、経営者・役員において平均値が最も高いことがわかります。「6 部落差別をなくすために啓発活動に力を入れるべきだ」において、自由業、次いで、自営業で平均値の低さが目立ちます。そして、「7 部落差別などの同和問題を知らない・逆」では、学生において平均値が低くなっています。

職種と部落差別に関する考え方との関連について、公務員・教員の意識は他の職種よりも高い傾向にあります。

地区別の部落差別についての考え方についてクロス集計を行ったところ、統計的に有意な傾向が見られるのは、表 8-5-1 の「2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる・逆」の考え方についてです。

表 8-5-2 は、有意差が認められた項目について平均値を示しています。

表 8-5-1

		合計	そう思う	思う	どちらかそう	どちらかそう	ない	そうは思わない	統計的検定
2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる	三田地区	156	12.8%	28.8%	25.6%	32.7%			p=.004**
	三輪地区	178	6.2%	27.5%	29.8%	36.5%			
	広野地区	57	1.8%	19.3%	40.4%	38.6%			
	小野地区	27	0.0%	37.0%	18.5%	44.4%			
	高平地区	35	5.7%	17.1%	20.0%	57.1%			
	藍地区	25	20.0%	16.0%	20.0%	44.0%			
	本庄地区	23	4.3%	30.4%	4.3%	60.9%			
	フラワータウン地区	271	8.1%	32.1%	21.8%	38.0%			
	ウッディタウン地区	435	9.0%	31.5%	26.0%	33.6%			
	カルチャータウン地区	48	12.5%	14.6%	31.3%	41.7%			
	つつじが丘地区	86	3.5%	31.4%	23.3%	41.9%			
	合計	1341	8.2%	29.1%	25.4%	37.3%			

表 8-5-2

F4 地区	2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる・逆
三田地区	2.8
三輪地区	3.0
広野地区	3.2
小野地区	3.1
高平地区	3.3
藍地区	2.9
本庄地区	3.2
フラワータウン地区	2.9
ウッディタウン地区	2.8
カルチャータウン地区	3.0
つつじが丘地区	3.0
合計	2.9

表 8-5-1 と表 8-5-2 より、「2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる・逆」について、高平地区、広野地区、本庄地区では平均値が高いことがわかります。しかし、この結果だけで部落差別に関する人権意識に地域差があると結論づけることはできません。